

第一線で働くプロにクローズアップ! 気になるあの仕事について調べてみました。

シゴト図鑑 Vol.33

トリマー

家族の一員である、かわいいペットたちの美容師。シャンプー、カット、爪切りなどのケアを通して健康状態を観察し、病気の早期発見につなげることもある。飼い主とペットのより良い関係を支えるため、技術を身に付け活躍する2人に話を聞いた。



信念
おしゃれにスタイリングするだけでなく、毛質や長さ、頭や骨格なども考え、犬にとって快適なカットを心がけている。

こだわり
ずっと立ちっぱなしなので犬もきついと思う。笑顔で話しかけたりしながら、できるだけ楽しい時間になるようにしている。

魅力
思い通りにならないことも多いが、完成した時の達成感は格別。飼い主さんが喜ぶ笑顔を見ると、苦労も吹き飛ぶ。

Dog Bloom (ドッグブルーム=国東市) 代表
まつばやし とむひろ
山崎 南々海 さん(24)
PROFILE/
臼杵市出身。津久見高、大分ドッググルーミング専門学校(別府市)を卒業後、同校直営のドッグサロンに入り、現在に至る。出身校でトリミング実習の助手として指導にも当たる。

Dog Bloom (ドッグブルーム=国東市) 代表
まつばやし とむひろ
松林 智宜 さん(43)
PROFILE/
国東市出身。日出高(現日出総合高)卒業後、会社員などを経て、ペットショップでトリマーの見習いとして働きながら夜間の講座で学ぶ。2003年、独立開業。国東市で妻、長男、長女と暮らす。

信念
個々の犬の持っている魅力を最大限に引き出す。一頭一頭にしっかり寄り添い、飼い主にもアドバイスする。

コンテスト
トリミング技術の自信を取り戻せる場所。自分の技術で結果を残せることは何よりの喜び。

こだわり
コンテストはその瞬間の美しさを競うが、2カ月に1回のペースでサロンを訪れるペットの場合は、1カ月後にベストな状態になるようカットする。

トリマーの主なシゴト

- 1 トリミング**
ブラッシング、シャンプーで毛のほつれや汚れを取り除き、客のイメージに合わせ体の毛をカットする。爪切りや耳掃除なども。
- 2 飼い方相談**
お世話の仕方やしつけの方法など、飼い主の悩みを聞いて正しい成育知識を伝える。繁殖のアドバイスをするなども。
- 3 病気の早期発見**
トリミングする際、皮膚病や感染症などがないかを確認。異常があれば動物病院の受診を勧める。
- 4 餌のアドバイス**
犬種や体調などに合わせ、適切な餌を提案。好みや食物アレルギーなどを踏まえ、飼い主と一緒に考えることも。



ワタシたちがトリマーになった理由。



Yamasaki Nanami

とにかく動物が好き。小学生の頃からトリマーになりたいと思い、隣家のラブラドルレトリバーを散歩させていた。また大型の商業施設に行くと、必ずペットショップをのぞいては飽きるまで眺めていた。
高校生になり、詳しく調べるとJKC(ジャパンケネルクラブ)公認の資格が就職に有利だと分かり、資格取得のできる県内の専門学校を進学先に選んだ。生活環境を変えることなく、電車通学できることもポイントだった。

入学前は「毎日犬と触れ合えて幸せ、技術職でかっこいい」とイメージしていたが、トリミング実習では自分がしたいことが犬に理解してもらえず苦しかった。次第に自分の気持ちや状態の悪さが犬にも伝わることに気づき、どう犬をリラックスさせるか、接し方や力の入れ方など自分なりの工夫で乗り越えていった。
育成科1年修了時にJKCトリマーライセンスC級、2年修了時にB級を取得。また毎年、トリミング競技会で入賞。てんぐになり

かけた時期もあったが、同じ高校出身のライバルから刺激を受け、謙虚さと向上心を維持できた。同級生の大半は2年で卒業したが、入学当初から「一番上の資格まで取りたい」と考えていたため、さらに2年間の専門科に進み、A級資格まで取得した。
卒業後、学校直営のドッグサロンへ就職。顧客の要望を聞き出すといった接客業務にもだんだんと慣れてきた。飼い主のリクエストに臨機応変に応えられるよう、さまざまな技術を身に付けようと自らを奮い立たせている。

高校時代は自転車競技に打ち込み、卒業後はプロの競輪選手を目指していたが、19歳の時「やり尽くした。感覚になり、方向転換。地元で就職した。
その頃、父の飼うパセットハウンドが出場したドッグショーで、トリマーの存在を知ることになった。犬は子どもの頃から飼っており身近だったこともあり、22歳の時に大分市内のペットショップで、トリマー見習いとして働くようになった。
店主に勧められ週2回、トリミ

ング学校の夜間講座に2年余り通い、さまざまな犬種で技術を磨いた。通学先が加盟する協会認定の資格と合わせ、JKC(ジャパンケネルクラブ)公認の資格も取得を志望。JKCの試験に合格するか、トリミング競技会で入賞すれば取れるため、競技会に挑んだ。
すぐに入賞し、C級資格を取得。2003年、国東町(現・国東市国東町)では初のドッグサロンを開業した。別の場所も模索したが、生まれ育った国東への愛着が上回った。競技会ではその後も入賞を続

け、5年余りという短期間でA級まで取得した。現在も年1~2回出場。客観的な評価を自分のトリミング技術の向上につなげたいという思いからだ。
現在はテリア種を中心にトリミングを行う。「ブラッキング」という、毛を抜く技ができるサロンとして技術の高さが評判に。大分市や別府市からも客が訪れる。見習い時代からの顧客も。「いつまで現役?」と聞かれることもあるが、体が動く限りは現場に立ち続けたいと意欲を燃やす。



Matsubayashi Tomohiro

トリマーになるには…

資格や免許は必須ではないが、仕事をする上ではカットやスタイリングの技術はもちろん、飼育法や病気に関する専門的知識が必要になってくる。技術や知識を証明するため、就職の際は資格を持っていると有利に働く。
主流とされているのは「JKC公認トリマーライセンス」。主に血統書の発行や管理を行っている団体「JKC(ジャパンケネルクラブ)」が発行している。

高校卒業後、トリマー養成機関としてJKC公認の専門学校などで学び、検定試験に合格すれば、比較的難しいとされるA級も最短4年で取得できる。
一方、公認校以外で技術を身に付けた後、受験することもできる。JKCが開催するトリミング競技会で入賞し取得する方法もあるが、実力が伴わなければ入賞できないため、相応の覚悟が必要になる。

活躍する分野

- ペットサロン**
ペットの健康を保ち魅力を引き出す。飼い主からの相談に的確に答えられるよう、動物に関する知識だけでなくコミュニケーション能力も重要。
- 動物病院**
獣医師のサポートをする。シリアスな場面に直面することもあるので、強い精神力や責任感が求められる。
- ハンドラー**
ドッグショーの当日、犬のリードを引きパフォーマンスを披露する。歩く姿や美しさ、魅力が伝わるように努める。
- ブリーダー**
主に血統書が付いている犬や猫の繁殖を担い、子犬や子猫を生ませて育てる。交配の知識と、犬の資質を見極める経験が必要。
- ドッグカフェ**
愛犬と一緒に食事を楽しむ店。犬専用のフードメニューやドリンクを、店ごとに工夫している。

目指す人へアドバイス



大分ドッググルーミング専門学校(別府市)校長、JKC公認トリマー教師
高橋 実加さん(56)

「動物が好き」という気持ちが最も大切。言葉が通じない動物を相手にするため、言うことを聞かないのは当たり前。ほえられたり、暴れたり、時にはかまれたりすることもある。
そのような場合はいったん作業をやめて犬の気持ちを落ち着かせる一方、トリマーもいららせずゆったりとした気持ちで淡々と仕事をこなすことが大事。刃物を扱うので、けがには細心の注意を払い、平常心を保つよう心がける。

立ちっぱなしの仕事なので、慣れるまでが大変。施術時間は犬によってまちまちだが、平均2~3時間はかかるため集中力が求められる。また50~60kgもある大型犬を相手にすることもあるため、かなりの体力も必要。
犬種の特徴を理解し、犬の魅力を最大限に引き出すトリミング技術はもちろん健康、栄養管理、しつけなど、飼い主に適切なアドバイスができるよう、コミュニケーション能力を磨き、信頼を得られるよう努める。